



科学リテラシーと 農芸化学を考える

第24回 農芸化学 Frontiers シンポジウム

「成分AにはB活性がある」という報告がいつの間にか
「AがCに効く!」という語句にすり変わって独り歩きしてしまう今日、
農芸化学者はどんなスタンスを取ればいいのでしょうか。
「論文にそんな記述はない」「誤解する方が悪い」
「プラセボで売れるならそれでいいのでは」と思いながらもモヤモヤするのは何故なのか、
その正体を見極めてスッキリと研究に打ち込みたいという思いから、
各界で著名な4名の先生にご講演いただきます。
フリータイムのディスカッションも思う存分できますので、ふるってご参加下さい。

「食品の機能性研究への期待と課題」 **松永 和紀** (科学ジャーナリスト)

「異分野をつなぐ懸け橋をめざす」 **児林 聡美** (東大医学研究科 栄養疫学)

「科学的であることの価値を考える」 **伊勢田 哲治** (京大文学研究科 科学哲学)

「社会に向けた『科学の伝え方』を考える」 **水町 衣里** (阪大COデザインセンター 科学コミュニケーション)

主催: 公益社団法人 日本農芸化学会
日時: 3月20日(月)15:30 (14時受付開始)~21日(火)正午
エクスカーショ参加の場合は21日17時終了予定
場所: KKR京都くに荘
京都市上京区河原町通荒神口上る東入東桜町27-3
参加費: 一般 8,000円、学生 5,000円、エクスカーション(希望者のみ) 2,000円

プログラム:

[20日] シンポジウム(15:30より)、夕食、分科会、交流会

[21日] 朝食、シンポジウム、総会
エクスカーション

「武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園」、「曼殊院門跡」、「菌塚」

申し込み〆切

1月31日

先着100名まで

CAUTION

年次大会とは別に
参加登録が必要です!

参加登録・詳細はウェブサイト (<https://jsbba-frontiers2017.jimdo.com/>) で
お問い合わせ: jsbba-frontiers2017@kais.kyoto-u.ac.jp (京大農学研究科 岸野)

